



2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年10月23日

上場会社名 フューチャー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4722 URL <https://www.future.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長(氏名) 金丸 恭文
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員(氏名) 松下 恭和 TEL 03-5740-5724
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績(2024年1月1日~2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA ※		営業利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	51,916	17.4	13,483	18.7	11,599	11.7	8,006	12.5
2023年12月期第3四半期	44,222	11.6	11,363	11.2	10,383	10.9	7,119	△1.1

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 5,672百万円(△24.6%) 2023年12月期第3四半期 7,521百万円(76.9%)

	1株当たり 四半期純利益
2024年12月期第3四半期	円 銭 90.36
2023年12月期第3四半期	80.38

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2024年12月期第3四半期	百万円 89,714	百万円 53,502	% 59.6	円 銭 603.68
2023年12月期	66,043	51,387	77.8	580.10

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 53,502百万円 2023年12月期 51,387百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年12月期	円 銭 —	円 銭 20.00	円 銭 —	円 銭 20.00	円 銭 40.00
2024年12月期	—	21.00	—	—	—
2024年12月期(予想)	—	—	—	21.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の連結業績予想(2024年1月1日~2024年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	70,200	18.3	17,000	13.2	14,650	6.9	9,900	7.4	111.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 3社(社名) 株式会社リヴァンプほか2社、除外 1社(社名)

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年12月期3Q	95,328,000株	2023年12月期	95,328,000株
2024年12月期3Q	6,700,416株	2023年12月期	6,744,163株
2024年12月期3Q	88,604,749株	2023年12月期3Q	88,570,135株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(第3四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
3. 補足情報	12
受注の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済環境をみると、不安定な世界情勢、国内における物価上昇傾向及び金利先高観の継続、為替レートの大きな変動といった環境の中でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）や業務改革、生成AI等を利用した新たなデジタルサービスの創出などITを通じた経営改革への取組みは引き続き旺盛です。また、働き方改革関連法の施行や人手不足への対応の取組みとして生産性・効率性の向上及び企業全体のサプライチェーンの見直し、ESG・SDGsの取組みに関連したITの活用も加速しており、あらゆる業種や領域において活発なIT投資が続いています。個人においては、ECサイト経由での購買、動画やオンラインを活用した娯楽やスポーツ観戦、ネットサービス上での教育、自己啓発などでのITの利用が定着し、これらに関連した様々なサービスが生まれています。

このような状況下、これからの銀行サービスの基盤となる「次世代バンキングシステム」の1行目の銀行における導入が完了するなど、当社の中長期的な成長に資する大型プロジェクトが順調に進行した結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は51,916百万円(前年同期比17.4%増)、営業利益は11,599百万円(同11.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、8,006百万円(同12.5%増)となりました。

各セグメントの業績(売上高・営業利益)については以下のとおりです。

① ITコンサルティング&サービス事業

フューチャー株式会社は、経済産業省が実施する国内生成AIの開発力強化プロジェクト「GENIAC（Generative AI Accelerator Challenge）」において「日本語とソフトウェア開発に特化した基盤モデルの構築」に関する事業の実施企業として採択され、協業する大学と共同チームを組成し開発を進めることとなりました。当社は、先端的なAIの学術研究、開発を進めながら、顧客及び業界の課題を実践的に解決するAIコンサルティングサービスを提供していきます。

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）は、顧客のDXを推進し、業務効率化を実現するプロジェクトをはじめ、多種多様な顧客の案件を獲得、推進しました。当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、「次世代バンキングシステム」導入プロジェクトが、1行目は2024年7月16日に安定稼働を開始し、当第3四半期連結会計期間においてシステム利用等に係るライセンス料を計上いたしました。2行目は開発・テストフェーズが順調に進捗しております。加えて、メディア向けCMS（Contents Management System）「GlyphFeeds」の導入プロジェクト、アパレル向け基幹プラットフォームシステム「FutureApparel」の導入プロジェクトのほか、政府が主導する医療保険DXに関連するシステム構築のプロジェクトなどが順調に進捗しております。これらの結果、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が引き続き好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

FutureOne株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注が増加したことにより、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社ワイ・ディ・シーは、製造業を中心とした顧客に対して、DXコンサルティング等を通じたデータ活用による工場マネジメントのデジタル化を実現する「Smart Factory」構築の牽引に加え、DX案件実行を通じた顧客への価値訴求が売上増に寄与したものの、大型のコンサルティング案件のピークアウトや人的資産も含めた積極的な投資を反映した採用コスト増、ソフトウェアの償却負担増などが影響し、前年同期比で減収減益となりました。

株式会社ディアイティは、サイバー防御演習等の従来のサービスに加えて、医療分野でのセキュリティコンサルティングサービスを新たに開始し、地域の基幹病院の案件を受注したものの、製品販売の受注が回復せず、前年同期比で減収減益となりました。

株式会社リヴェンプは、プライベートエクイティファンドや経営者の実務を支援する経営マーケティング事業において既存案件に加えてヘルスケア分野の案件を新規受注するなど、業績は堅調に推移しています。基幹システム刷新や全社構造改革のコンサルティングを行うDX事業は、概ね計画通り進捗しています。なお、当社グループは、株式会社リヴェンプの損益を第2四半期連結会計期間から取り込んでおります。

この結果、本セグメントの売上高は45,113百万円(前年同期比18.5%増)、営業利益は11,332百万円(同6.6%増)と増収増益となりました。

② ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、仕入、商品掲載、EC販売を一気通貫で推進する施策や、取扱商品の小型化による物流費の削減等により、利益率が高い商品の売上を伸ばしたものの、アウトドア及びアパレル市場における厳しい競争が続いていること、不採算商品の整理に伴う販売促進費等が増加したことなどから、前年同期比で減収、営業損失額は横ばいとなりました。

東京カレンダー株式会社は、コンテンツ事業における広告売上及び「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したことにより、前年同期比で増収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、スポーツチーム向けのチーム強化システム「Future Fastball」の導入案件をはじめ、複数の既存顧客向けの機能追加案件や、マーケティング事業にてラグビーチーム向けの支援案件を受注したことなどから、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社キュリオシティは、ジュエリー、腕時計など海外ラグジュアリーブランドの複数の大型ストアデザインの順調な進捗などを背景に、売上・収益ともに堅調に推移しています。当社グループは、同社を前期の第2四半期連結会計期間から新規に連結しており、当連結会計年度より業績が同期寄与します。

この結果、本セグメントの売上高は6,833百万円(前年同期比12.7%増)、営業利益は364百万円(前年同期は営業損失323百万円)となり、前年同期比で増収増益となりました。

なお、報告セグメントにおけるフューチャー株式会社の持株会社機能の収益並びに費用及びセグメント間の取引消去を計上する「調整額」の営業損失が26百万円となり、前年同期比で226百万円の減益(前年同期は営業利益199百万円)となりました。これは、主にフューチャー株式会社が株式会社リヴァンプの株式取得関連費用を計上したことによるものです。

(注) 上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は89,714百万円となり、前連結会計年度末に比べ23,671百万円増加しました。その主な要因は、株式会社リヴァンプ及びその連結子会社1社並びに持分法適用関連会社1社を連結の範囲に含めたことに伴い、のれんの増加(前連結会計年度末比+10,312百万円)及び顧客関連資産の増加(同+10,157百万円)等によるものです。

負債は36,212百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,555百万円増加しました。その主な要因は、株式会社リヴァンプの全株式取得のための資金調達により、1年内返済予定の長期借入金が増加(前連結会計年度末比+2,856百万円)、長期借入金が増加(同+15,714百万円)したこと等によるものです。

純資産は53,502百万円となり、前連結会計年度末に比べて2,115百万円増加しました。その主な要因は、利益の積み上げ等により利益剰余金が増加(前連結会計年度末比+4,373百万円)した一方で、保有株式の市場価格の下落によりその他有価証券評価差額金が減少(同△2,331百万円)したことによるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,015	30,388
受取手形、売掛金及び契約資産	10,195	13,474
有価証券	200	—
商品及び製品	1,160	1,382
仕掛品	31	18
その他	4,637	2,446
貸倒引当金	△3	△0
流動資産合計	44,237	47,710
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,869	1,962
減価償却累計額	△1,317	△1,449
建物及び構築物 (純額)	552	513
土地	0	0
その他	3,115	2,741
減価償却累計額	△2,648	△2,159
その他 (純額)	466	581
有形固定資産合計	1,020	1,095
無形固定資産		
のれん	1,083	11,396
ソフトウェア	3,370	3,610
顧客関連資産	90	10,247
技術関連資産	1,135	1,041
その他	4	10
無形固定資産合計	5,684	26,306
投資その他の資産		
投資有価証券	13,770	12,952
敷金及び保証金	1,205	1,524
繰延税金資産	0	—
その他	126	131
貸倒引当金	△1	△5
投資その他の資産合計	15,102	14,603
固定資産合計	21,806	42,004
資産合計	66,043	89,714

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,096	1,768
1年内返済予定の長期借入金	—	2,856
未払金	1,604	1,330
未払法人税等	2,582	2,619
賞与引当金	277	1,655
品質保証引当金	103	96
プロジェクト損失引当金	38	33
その他	5,140	4,342
流動負債合計	10,842	14,703
固定負債		
長期借入金	—	15,714
資産除去債務	357	355
繰延税金負債	3,324	5,338
その他	132	99
固定負債合計	3,813	21,508
負債合計	14,656	36,212
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
資本剰余金	84	146
利益剰余金	41,537	45,911
自己株式	△2,201	△2,186
株主資本合計	43,421	47,870
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,938	5,607
繰延ヘッジ損益	△2	△5
為替換算調整勘定	30	30
その他の包括利益累計額合計	7,966	5,631
純資産合計	51,387	53,502
負債純資産合計	66,043	89,714

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	44,222	51,916
売上原価	22,706	26,380
売上総利益	21,515	25,535
販売費及び一般管理費		
役員報酬	473	610
給料及び賞与	4,751	5,897
雑給	238	257
地代家賃	706	835
研修費	620	702
研究開発費	938	943
減価償却費	299	881
採用費	730	811
のれん償却額	116	503
その他	2,258	2,493
販売費及び一般管理費合計	11,132	13,936
営業利益	10,383	11,599
営業外収益		
受取配当金	160	162
持分法による投資利益	36	123
為替差益	42	—
投資有価証券売却益	—	145
その他	12	63
営業外収益合計	252	494
営業外費用		
支払利息	1	104
投資事業組合運用損	15	69
為替差損	—	29
金融手数料	—	220
その他	2	0
営業外費用合計	18	423
経常利益	10,617	11,670
特別利益		
投資有価証券売却益	—	166
特別利益合計	—	166
税金等調整前四半期純利益	10,617	11,837
法人税、住民税及び事業税	3,763	4,411
法人税等調整額	△265	△580
法人税等	3,497	3,830
四半期純利益	7,119	8,006
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,119	8,006

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	384	△2,331
繰延ヘッジ損益	7	△3
為替換算調整勘定	10	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	—
その他の包括利益合計	402	△2,334
四半期包括利益	7,521	5,672
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,521	5,672

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、株式会社リヴァンプの全株式を取得したため、同社及びその子会社1社を連結の範囲に含め、関連会社1社を持分法適用関連会社としております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	ITコンサル ティング&サ ービス事業	ビジネスイ ノベーション 事業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	38,018	5,947	43,965	257	44,222	—	44,222
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	49	114	163	376	539	△539	—
計	38,067	6,061	44,129	633	44,762	△539	44,222
セグメント利益 又は損失(△)	10,631	△323	10,308	△125	10,183	199	10,383

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社(テクノロジー部門を除く)の収益並びに費用の額であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ビジネスイノベーション事業」セグメントにおいて、株式会社キュリオシティを取得したことにより、同社を連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は、前第3四半期連結累計期間においては846百万円であります。なお、当該のれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	ITコンサル ティング&サ ービス事業	ビジネスイ ノベーション 事業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	45,054	6,715	51,769	146	51,916	—	51,916
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	58	118	177	351	529	△529	—
計	45,113	6,833	51,947	498	52,445	△529	51,916
セグメント利益 又は損失(△)	11,332	364	11,696	△71	11,625	△26	11,599

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社(テクノロジー部門を除く)の収益並びに費用の額であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、株式会社リヴァンプを取得したことに伴い、同社及びその子会社1社を連結の範囲に含め、関連会社1社を持分法適用関連会社としております。これに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の「ITコンサルティング&サービス事業」のセグメント資産が30,129百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ITコンサルティング&サービス事業」セグメントにおいて、株式会社リヴァンプを取得したことに伴い、同社及びその子会社1社を連結の範囲に含め、関連会社1社を持分法適用関連会社としております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において10,815百万円であります。なお、当該のれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	863百万円	1,381百万円
のれんの償却額	116	503

3. 補足情報

受注の状況

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ITコンサルティング&サービス事業	42,252	18,339	46,567	18,232
ビジネスイノベーション事業	3,559	1,680	3,134	888
合計	45,811	20,020	49,701	19,120

区分	第2四半期連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)		当第3四半期連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ITコンサルティング&サービス事業	15,573	18,721	16,112	18,232
ビジネスイノベーション事業	935	1,322	855	888
合計	16,508	20,044	16,967	19,120